＝特別シリーズ＝

科学技術振興機構『さくらサイエンスプラン』友情と感激　第79回

福岡県の活動報告

福島明彦
（福岡県企画・地域振興部理事兼国際局長）

インド・デリー準州の高校生が福岡県で「環境」をテーマに学習

1　プログラムの概要

福岡県は、インド・デリー準州と平成19年に友好提携を締結し、環境や青少年といった分野で交流を進めています。

今回、さくらサイエンスプランによる支援のもと、インド・デリー準州のエコクラブ（デリー準州の中学・高校に設置されている環境美化やリサイクル等に取り組むクラブ）に所属する高校生10名を招聘しました。

プログラムのテーマは、「福岡県の最新の環境技術を学ぶ」です。本県は高度経済成長期の公害を克服する過程で蓄積してきた優れた環境技術やノウハウを有しています。一方、インドでは、急激な経済発展と人口増加による環境問題が深刻化しています。このため、本県の多様な環境関連施設の視察や、環境分野に携わる専門家の講義を通じて、環境保全活動のリーダーを育成することを一つの目的として実施しました。併せて、デリー準州の高校生に本県の最先端の研究機関や技術を知ってもらうだけでなく、福岡県の高校生や地域住民と草の根交流を実施できる内容としました。

1①　福岡県の環境施策や技術等についての学習

深刻な大気汚染への対策が喫緊の課題となっているデリー準州の要望を受け、福岡県保健環境研究所において、福岡県における大気汚染の発生原因や観測方法について説明を受けました。

また、福岡女子大学の馬　昌珍教授に「エネルギー使用に伴う大気汚染」をテーマにした講義と実験をしていただきました。

さらに、北九州エコタウンでは、廃棄物ゼロを目指したリサイクルの街づくりについて最新鋭のごみ処理工場施設「クリーン・エネ・パーク南部」を視察し、日本の廃棄物処理技術を学びました。

いずれの訪問先においても、幾度も質疑応答が繰り返されるなど、生徒たちの大気汚染や環境問題に対する関心の高さを改めて実感しました。

プログラム	
1日目	到着、福岡県庁表敬訪問
2日目	福岡県立柏陵高校環境コース生徒との交流、大気汚染観測施設視察 福岡県の留学支援制度の紹介、外国人留学生との交流
3日目	九州大学水素エネルギー研究施設見学 下水汚泥から水素エネルギーを生成する施設（福岡市中部水処理センター）見学 水素自動車試乗
4日～5日目	環境に優しい農林業体験（上毛町有田地区）
6日目	北九州エコタウン見学 新設のごみ処理工場の最新技術を視察（クリーン・エネ・パーク南部）
7日目	福岡女子大学　馬　昌珍教授「エネルギー使用に伴う大気汚染」に関する講義と実験 成果報告会
8日目	離日

1②　福岡県にある最先端の科学技術についての学習

福岡県では、他に先駆けて、水素エネルギー社会の実現に向け、「福岡水素エネルギー戦略会議」の下で、研究開発、人材育成、産業化に取り組んできました。

また、官民による「ふくおかＦＣＶクラブ」を中心に、ＦＣＶの普及と水素ステーションの整備を一体的に推進しています。

今回、水素に関する最先端の研究活動を行っている九州大学において、林　灯教授から直接講義をうけるとともに、水素ステーションの見学やＦＣＶの試乗を行いました。

また、福岡市中部水処理センターでは、下水汚泥から水素を製造する工程を視察しました。

1③　福岡県の高校生や地域住民との草の根交流

プログラム期間中、環境関連の専門科目を学ぶ「環境科学コース」が設置されている福岡県立柏陵高校において、高校生との交流を実施しました。

週末には、福岡県築上郡上毛町の有田地区の農家に宿泊し、様々な農作業を体験しました。上毛町では、地域の子供たちから「神楽」を披露いただくなど、草の根交流が実現

2017年 4月11日 11時28分　総広告　NO. 7236　P. 1

できました。

２　プログラムの成果

最終日、プログラムを通じて得た知識や見識に対する感想やそれらを今後、自国での活動にどのように活かしていくかについて、デリー準州の高校生に発表してもらいました。生徒たちは「日本の最先端の技術に感動した」、「日本で得た知識を仲間に伝えたい」、「インドの環境を守るため、ごみの分別やリサイクルなど、身近に取り組めることから、すぐにでも始めたい」など、思いを熱く語ってくれました。

また、九州大学、福岡女子大学における講義に刺激を受け、「日本に留学をしたいので、支援制度があれば知りたい」といった質問が寄せられるなど、このプログラムはインドの高校生が日本に対する理解や親しみを深めることにも大いに貢献したと思っております。

さらに、交流した柏陵高校からも、「生徒たちが、国際交流できる良い機会となった。こうした機会があれば、今後もぜひ継続し、中身も充実させたい」という声をいただくなど、インド側、日本側双方にとって友好を深め、互いの理解を促進する事業であったと自負しております。

３　今後の展望

今年3月、本プログラムのカウンターパートであるデリー準州環境局のバラディ環境局長と本プログラムについて、話す機会を得ました。

バラティ局長からは、デリー準州としても、このプログラムを大いに評価しており、参加した生徒たちが日本で得た見識をもとに、さらに活動をさらに充実させていけるよう、しっかりとサポートしたい、と力強い言葉をいただきました。

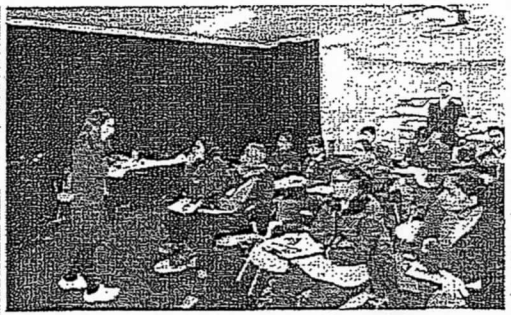
生徒たちが最終日に語ってくれたように、本プログラムで学んだ多くのことは、きっと帰国後のそれぞれの活動に活かされ、他のエコクラブの生徒に本県で学んだことを広く伝えてくれると期待しております。

福岡県としても、このプログラムが一過性のものにならないよう、エコクラブの活動のフォローアップを続けていきたいと考えております。また今回、縁あって招へいした生徒たちが福岡県とデリー準州、日本とインドとの交流の架け橋となっていただけるよう、招へい者との今後のネットワークの構築について検討しているところです。

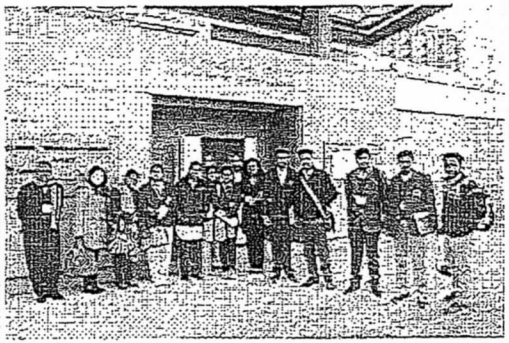
福岡県とデリー準州との友好提携は今年、10周年を迎えます。今後も、「環境」、「青少年」を柱に、幅広い分野において交流が深まるよう、取り組んでまいります。

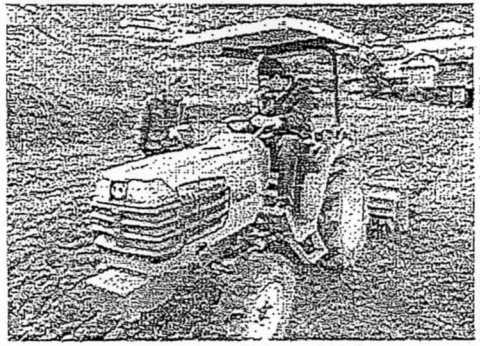
最後に、このプログラムに支援いただいた国立研究開発法人科学技術振興機構に改めて感謝申し上げます。

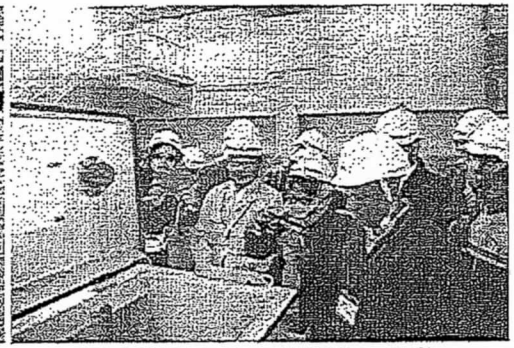
県立柏陵高校環境科学コース生徒による活動報告


九州大学水素エネルギー国際研究センター林灯教授による講義

同コース生徒との交流（習字体験）


水素ステーションを見学


田んぼの耕うん体験


下水汚泥から水素製造を見学